

令和6年度 厚木市障害者協議会 第1回 一貫した子育て・療育支援プロジェクト

日 時	令和6年6月27日（木）午後2時～午後3時30分
場 所	厚木市役所 第二庁舎 16階 会議室A
出席者	厚木市障がい福祉課、厚木市教育委員会、厚木市子ども家庭センター子ども保健第二係・子ども相談係、子ども育成課、保育課、青少年教育相談センター、厚木児童相談所、厚木保健福祉事務所保健福祉課、座間支援学校、伊勢原支援学校、えびな支援学校、社会医療法人社団三思会 多機能型事業所にじいる、やまびこ会（厚木市自閉症児者親の会）、えんじえるビレッジ金田 事務局：厚木市児童発達支援センター、厚木市障がい福祉課、厚木市子ども家庭センター発達支援係、厚木市障がい者基幹相談支センター
1 開会 出席者自己紹介 2 議題 (1) 令和5年度 一貫した子育て・療育支援プロジェクト活動報告 及び 令和6年度事業計画について 報告者；厚木市障がい者基幹相談支センター 令和5年度は平成28年度に刷新したマイサポートブックをこのプロジェクトの中で改訂、更新作業を行った。その周知方法について検討を重ねてきた。また「支援が必要な子どものためのサービスマップ」を作成し、厚木市内の子育て、療育支援機関等の役割や成人期以降を見据えた支援体制を可視化し、子育てに係る期間に配布し周知、活用できるようにした。放課後等デイサービス・児童発達支援事業所連絡会では、相談支援事業所や教育委員会に参加を呼びかけ、グループワークや意見交換等を実施し連携体制の構築に努めた。 令和6年度は、障がいのある子どもの発達や家族の支援として、子育てを家族的責任にしないために、必要な情報に繋がれるよう、その必要な社会資源の存在を知らない、必要な社会資源へアクセスできないといったことがないよう、社会の中で支援を受けながら乳幼児期から支える仕組みを「支援が必要な子どものためのサービスマップ」を活用してネットワーク化していく。 また、新たに医療的ケア児等における支援体制の構築に向けて、医療的ケア児等コーディネーターを中心に、具体的な事例を共有することから始め、厚木市内における支援体制の構築に向けて協議する場とする。 (2) 令和6年度 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所連絡会について 報告者；厚木市障がい者基幹相談支センター・えんじえるビレッジ金田 厚木市内約40事業所があり、プロジェクトの中で連絡会を開催してきた。昨年度は3回実施し、相談事業所と合同としたり、教育委員会の教員から厚木市の教育システムについて話して頂いたりしてきた。事業所の方から、連絡会で取り組みたい内容や研修などを積極的に意見が挙がるようになってきたことから、今年度から共同代表で、えんじえるビレッジ金田、りずむはもと妻田に運営をお任せし、事務局はサポートにまわり、事業所で積極的に活動してもらうこととなった。この昨年度の活動が、今年度のテーマである保護者支援、親支援、というところに繋がっていけばよいなと感じている。	

えんじえるビレッジ金田より

40 近い事業所がある事から、昨年度の連絡会時にこの連絡会の運営委員について募集を行い、5名の運営員を選抜し、7月の開催に向けて話し合いを重ねていく。昨年同様に今年度も3回くらい開催を予定している。具体的には、多くのご家族に「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所」とはどんなところなのか知ってもらう「説明会」の開催、その際に相談事業所の説明の機会を設ける。また、学校、放課後等デイサービス事業所との連携について、法人の枠を超えた防災協力体制、防災対策について、事業所のスキルアップのための研修制度、研修体制について、を連絡会の中で検討、活動していこうと思っている。特に説明会については、5年ぶりの開催となり、当時の資料などを参考に対応にあたりたい。

(3) マイサポートブックとサービスマップの市民への普及・啓発について

報告者；厚木市障がい福祉課

昨年度、このプロジェクトでマイサポートブックを「全年齢版」と「0歳～年長版」というものに作り替えた。親が記入し、学校の面談や福祉のサービスを受けようとする時に事業所に持参し、これまでの成長についての記録を活用してくださいということをお知らせするちらしを用意した。

サービスマップは、他市で作られていたものを参考に、昨年度厚木版に作り替えたもの。今、サービスを利用したい人だけでなく、その周りにいる人やサービスを必要としている人が身近にいる人などが渡してくれるだけでも良い。

「マイサポートブック」ちらしも「サービスマップ」もプロジェクト委員で活用、普及させていきたい。各委員での状況、活用方法の可能性など情報共有したい。

厚木市障がい福祉課

この有益な制作物を作ったあと、周知することが課題となることが多い。これをホームページで検索すればということだが、そこにもたどりつけないことがある。一般的によく目に付くサイトのページに張り付けられているなど、もっと身近に情報が入手できるようにするなど、色々な機関と連携しながら効果的な周知ができればいいと思う。

厚木市教育委員会

現在、就学相談が始まっていて、保護者から放課後等デイサービス事業所について質問があり、サポートブックをお渡ししている。また、就学相談の中でもマイサポートブックも渡している。

厚木市こども家庭センターこども保健第二係

乳幼児健診など、市内の幼児に関わることがあるが、障がいがあるのかもしれないなど不安に思っている親もいる中で、もし渡すのであれば言葉を添えて渡した方が良いのかと感じた。ただ、「もみじの手」など一般的なサービスのちらしなども配布するので、そこでならとも思う。少し揺れ動いている保護者の方には丁寧提供すべき情報。

厚木市こども家庭センターこども相談係

要対協で関わっていると子どもに発達の課題を抱えている方は多いと感じる。子どもの安全確認の為に児童発達支援事業所から情報をもらおうといったことが、ここ最近はとても多いと感じている。3歳でひよこ園に行くか児童発達支援事業所に行くか、と揺れ動いている親

に対し、1つの案としてお渡しすることはできる。学齢期になってくるともっと難しくなることもあり、学校とセンターと協力しながらタイミングでどちらがどのように渡すのが有効なのか、要対協の機能を使う中で支援機関と相談しながら決めていけたら良いと思う。

青少年教育相談センター

青少年相談の待合で手に取れるように置くことはできる。教職員向けの研修を行っていて、教育コーディネーターという役割をもつ教職員にサービスを知っていただくということで、マップを配り、知っていただくことはできるが、個別に渡す、ということは難しいと感じる。

こども育成課

子育てサイトの中では現在、マイサポートブック等は載っていない。保護者の方向けに、それぞれ載せることは可能かなと思う。子育てガイドという冊子を製作しているが、それが2年に1度の製作となっているので、今年は作成しないが次回作成時に載せて周知していくことが可能。幼稚園や保育園に通われる方が受付に来られるので、他の資料と一緒にお渡しすることができる。

保育課

保育課で行っている勉強会などで情報提供をしていき、保護者に保育課として直接渡すことはないけれど、各園の担当者に、実際に加配が必要な方に、お渡しする際は丁寧に対応をしなければいけないけれど、各園にこの情報があれば、しかるべきタイミングでお渡しできるかなと思う。

えんじえるビレッジ金田

とびこみで来られる方、学校の友だちが行っていると聞いて、と全くサービスを使っていない子どもの親から連絡がくることがあるので、その対応などに使いたい。これは、外国語版があるのか。

→厚木市のホームページのものは、主要な言語（中国語・英語）の翻訳機能があるが必ずしも正確ではない。

事業所の地理的に外国籍の方が多い。今までは英語圏の方が多かったが、このところはスペイン語とポルトガル語の方が増えている。子どもは日本語をわかるけれど、親は全く日本語の理解がないなどもある。通訳を連れてきていたけれど、利用者の保護者がアルゼンチン出身で訳してくれたことなどがあった。外国籍の方達は、このマップなどは、理解が難しいからみていない。文化も言語も多様化の時代となってきたので、これらも多言語のものを作成したら良いと思った。

急に来所された時等、一から説明をする。その際にはこのようなマップ等を活用して対応したい。

やまびこ会

やまびこ会のホームページからリンクに飛べるようにすることや茶話会で紹介することはできる。市役所や相談支援事業所に行った際に手に取るのと同じくらい、目に入る大きさのものが貼ってあったら見るのと思う。学校や幼稚園、保育園など、年度初めなど全員にくばったら、該当の家族もうちだけがもらったとはならないのではないかな。

多機能型事業所にじいろ

当事業所利用希望者にお渡しすることは可能。利用者の多くが相談支援事業所と繋がって

いない。その為、通所している当事業所に聞いてくることが多い。このマップなどから関係機関を紹介する等できると感じた。

えびな支援学校

各支援学校ともに厚木市の学生だけではないので、周辺の市町村のこのような会議に参加することがある。その中でこのサポートブックだったり、マップだったり二次元コードがついていたり、気軽に確認することができて良いと感じた。資料を読む、プリントを見るより、携帯で確認できる方が活用しやすいのでは。教員自身も各機関のことをわかっていないので市町村からこのような情報が出ていることはありがたい。保護者のネットワークが繋がっている方ばかりではないので、そういう方に学校から情報提供する際に活用できれば、と思う。また、現在の学校は、外国籍の方が増えており、多言語化というのは必須と感じている。言葉の問題なのか発達の問題なのか、多言語化によって保護者が必要な情報を手にするということも大切と思う。

えびな支援学校

教員が情報をわかっていない、知っていないという状況もあると思う。サポートブックやサービスマップから各市町村の仕組みを周知していきたい。

伊勢原支援学校

保護者から面談などを通じて質問をされたりするが、福祉サービスや制度について伝えられないこともある為、一目見てわかるマップは有益な情報である。相談だけでなく、ハローワークや進路のことも載っているので参考に情報共有していきたい。

座間支援学校

厚木市の生徒だけではないので、個々でお配りするというより、昇降口に各事業所の情報だったり、お知らせなどを置いているので、そこに置かせていただき保護者の目に届くようにしたい。

厚木保健福祉事務所

小児特定疾病の申請に来られる保護者の方に、サポートブックなどの情報提供をしていきたい。サービスマップに関しても、一枚に色々な情報が載っている。「支援の必要な・・・」という題名が、人によっては受け止めが難しいとも感じる。マップからこのサービス全部使えんと思われるも困るとも感じた。この辺りは、お渡しするのであれば少し助言等も必要かな、と思う。

厚木児童相談事業所

昨年よりこのプロジェクトに関わりながら、やったこととしてまずは職員が厚木市のサービスについて知ろうということで、このマップとサポートブックを職員会議などで話題にした。障がい担当をする相談と通常発達の相談担当があり、支援課にも知っていただいた。窓口には置いているが実状としては、数枚ずつ減っていくという様子。継続的に関わっている中で、サポートブックを実際に使われている方が2名おり、少しずつ浸透しているかなと実感している。今後、どのように活用したら良いのか、療育手帳取得の手続きで来られた方に情報として伝えるなどができるか。サポートブックを使っている保護者の方で、書くことを勧められた支援機関の方に、「まだ書いていないんですか」と言われることがありました、と報告されたことがあり、これが障がいをもつ親にとってプレッシャーになったり、書かないといけない、みたいなものになっているならば本末転倒だなと思う。まずは、書けるとこ

ろからでよいですよ、サポートブックの書き方を改めて伝えても良いのかと思うところ。

厚木市子ども家庭センター発達支援係（まめの木）

→サポートブックは、まめの木に来た際にお渡ししている。来所の度にコメントを貼ったり、次の支援機関に行く際にもっていくように伝えたりしている。横のつながりを作ったりしている。一番最初にお渡しするときに、使い方について説明し、ここが記入してあると子どもマニュアルみたいになっていいですよ、と伝えている。

厚木市障がい者基幹相談支援センター

多くの人に知ってもらうためには、当事者、当事者家族だけではなく、病院、公民館、社協が関係している民生委員、広く一般市民に周知してもらい、困っている人に声をかけて、必要な人に必要な時に繋がるということができれば良い。今年度、市役所の協力で公民館等に掲示や置かせてもらえたら、良いなと思っている。マイサポートブックに関しては、普及が少し進むと事業所や学校などから勧められることもあると考える。書くことを勧める中でもしかしたら書くことを強要するような言い方をするとこも出てきてしまう可能性があることもわかった。

厚木市子ども家庭センター発達支援係（まめの木）

サービスマップに関して、まめの木に来る人の多くが障がい受容に揺らいでいる親。そこで渡すことは難しいと感じるが、まめの木を卒業して次のステップに向かうところでは渡していきたい。グループの勉強会で言葉を添えて渡していきたい。

厚木市児童発達支援センター（ひよこ園）

ひよこ園に来られる方は、まめの木である程度理解をしてこられるのだけれど、ひよこ園の相談室に貼っておこうと思う。将来を不安に思う親へも味方となるようなサービスマップとなれば良いと思う。

次回、プロジェクトの際に実際に実施した様子などを報告していただければと思う。

（4）不登校のリーフレットについて

令和4年に行っていた一貫した療育支援を考える連絡会（一貫会議）で作成したリーフレット不登校の状態で困っている当事者や家族、支援者に向けたメッセージのこめられたリーフレットとなっている。裏面には支援機関が書かれているものでもある。この度、青少年教育センターから不登校に関する冊子を作成することになり、このリーフレットを入れてくれることになった。発行元をこのプロジェクトにしてよしいか。

厚木市青少年教育センター

不登校の状態にある学生、保護者向けの冊子を作成している中で、このリーフレットを入れ込むこととなった。

拍手にてリーフレットの事務局について賛同を得る。

（5）その他

厚木市障がい福祉課

「障害児通所支援等事業所ガイドブック」各事業所の特徴を載せたもの。すべての事業所は載

っていないが、参考にさせていただければと思う。

「厚木市障がい者相談支援センター」のリーフレット

厚木市内を8地区に分けた市委託の相談支援センターがあるということを周知する際に活用していただければ。

サービスマップやマイサポートブックのちらしを各事業所に10部ずつでもお配りした場合、各機関で活用していただけるか。

→活用するとのことで、障がい福祉課より準備ができ次第配る。

以 上

3 閉会

えんじえるビレッジ金田

お疲れさまでした。情報が多く、それぞれの場所で有効活用していければと思う。

次回日程： 令和6年10月ごろ

会場： 未定